

- A「やあしばらく。あまり目出たい気分でもないけれど、まずは新年を迎えられたことを喜ぶとするか。」
- B「そうだね。2011年は日本の歴史上、転換点の一つとして記憶に残りそうだが。」
- A「まったく。昭和が戦前・戦後で区切られるとしたら、平成は3.11前・後で区切れそうな感じがするね。」
- B「震災・原発事故・水害・TPP等々、語るべきことは山ほどありそうだな。」
- A「確かに、山ほどね。まずは原発から行くか。実は、私は学生時代に大学院進学時の専攻選びで、環境と原子力を天秤にかけたことがあってね、それ以来ずっと、本業のかたわら原子力関係の情報収集には気を配って来たんだよ。」
- B「そりゃ、初耳だな。」
- A「学部時代に、一番尊敬していた先生が原子核化学工学という専攻だったので、元々は環境問題に関心があって化学工学を選んだんだけど、原子力分野に転進すべきか大いに迷って、あれこれ調べたんだ。でも勉強してみて驚いたことに、原子力にはどうも明るい未来はなさそう、ヤバイと感じた。それで原子力専攻への進学は諦めた。」
- B「どんな点をヤバイと感じたのかね？」
- A「もう30年以上前の時点で既に、事故の可能性や放射能の危険性はもちろん、使用済み核燃料の処理・処分等々、多岐にわたる問題点が指摘されていた。当時の私は、技術が進めば解決するかも知れないと思っていたけれど、事実はそうではなかった。むしろ、当時から指摘され危惧されていたことが、すべて現実化したことに驚いているよ。『メルト・スルー』なんて、本当に起こるとは全く考えられなかった。」
- B「でも、ずっと、原子力発電は安くて安全な電力供給源だとされてきたんだよね。」
- A「それにはたくさんのカラクリがあってね。相当な情報操作がなされていたんだ。」
- B「実際は安くないのかね？」
- A「全然。『1kWh当たり原子力5.3円、石炭火力5.7円、LNG火力6.2円、石油火力10.7円、水力11.9円』と言った数字が霞ヶ関や大手町を支配していたけど、発電単価5.3円の原発など1基もない。一番安い玄海2号機は6.86円だが、泊1号機で17.9円、女川1号機16.98円、柏崎刈羽5号機19.71円、浜岡3号機18.7円、大飯3号機14.22円、玄海3号機14.7円・・・と続く。実はこれら全部、電力会社自身の見積もりなんだよ。設置許可申請の時に政府に提出してるんだ。法定耐用年数16年としての計算だから、寿命を40年とするよりも高く計算されるけどね。」
- B「なんだ、それでも大半、石油火力よりかなり高いじゃないか。」
- A「実際には、核燃料サイクルやバックエンド(放射性廃棄物の処理・処分)、高速増殖炉の開発・運転や、再処理を委託した英仏からの返還廃棄物関連、廃炉等々にも膨大な費用がかかるが、最近の見直しでも廃炉費用など極端に安く見積られている。」

B「でも、原発をやめて火力に切り替えると、燃料代が3兆円もかかって、電気代が上がるって報道されていたる？」

A「その計算はね、原発はいくら動かしても一銭もかからず、火力転換の燃料費増加分を全部料金に上乗せしたらそうなる、というベラボウな話なのだ。」

B「本来は、原発を動かしている時の発電原価と、その分を火力で代替した場合の原価を比べないといけないわけだな。その差額が、上乗せ分になると。」

A「その通り。でも、発電所ごとの発電単価実績は一切公表されていない。何度も情報開示を要求されているのに、電力会社も政府も『企業秘密』の一点張りなんだ。」

B「じゃあ、原発やめたら燃料代3兆円上乗せってのは、ウソなんだね。」

A「もちろん大ウソ。考えてごらんよ、いくら何でも、原発の発電コストがゼロだなんて、現実にはあり得るかどうか。」

B「まあ、それはないな。でも、他の発電の設備容量で電力需要を満たせるのかい？」

A「ああ、それは心配ない。私は統計データで調べたんだ。統計に載っている設備容量と発電実績を比べれば、設備稼働率が計算できる。例えば直近の2009年の値では、火力が46.6%、原子力65.4%、水力19.9%となっている(別添資料参照)。」

B「なんだ、電源の7割を占めている火力の稼働率は、半分以下なのか。」

A「そうなんだよ。だから、火力の設備稼働率を70%位まで上げれば、たとえ原発を全部やめても簡単にカバーできる計算。しかも、コスト計算上は火力より原子力の方が高そうだから、その時は火力に転換した方が却って電気代が安くなるってわけだ。それに、火力と言っても、一番安い石炭を使えば、石油の半分以下(場合によっては1/5にもなる)の単価で発電できる。当面は、震災復興などにお金がかかるから、できる限り安い電力を生産する方が国民経済の利益にかなうと思うよ。」

B「でも化石燃料を使うとCO<sub>2</sub>大量排出で温暖化対策がダメになるんじゃないの？」

A「やはりそう来るか。去年も言ったけどね、日本のCO<sub>2</sub>排出量はね、世界の4%程度なの。それが1割や2割増えても減っても、地球環境には何の影響もない。」

B「本当に1割増程度で済むんかい？」

A「たぶん済むね。一番新しい2008年のデータでは、日本の一次エネルギー総供給量のうち原子力の占める比率は9.7%、つまり約1割。この分を化石燃料で代替することになる。実際には原子力は発電以前に大量のCO<sub>2</sub>排出があるから、正味の増加はもっと少ないはず。原子力から完全撤退するのは、実はそんなに難しいことじゃない。マスコミによく出る『原発の是非は国のエネルギー政策の根幹に関わる大問題』などと言う表現は、私に言わせれば大げさすぎる。あれは、原発の利権にしがみついた勢力の大キャンペーンの一環さ。総エネルギーのたかが1割じゃないか。石炭の半分だよ。電力も、この夏を乗り切れたのに、この冬や来年の夏は電力不足になるぞ〜という脅しが出ているけど、原子力がないと困るでしょと言いたい人たちの策謀だろう。」

B「なぜ、そんなにキャンペーンされるのかね？」

A「たぶん、原子力関連には膨大なお金が絡んでいて、その利権が大きいから、死んでも手放したくない勢力がある。金融系(財界)・官僚・電力・御用学者……。金と権力を握っているから、マスコミの情報操作能力も高い。もう一つは、核武装したい人たちだ。原爆を作るためのプルトニウム製造技術を手放したくないんだろう。以前、テレビのインタビューで『抑止力としての原発』に意味があるんじゃないか?と明言した代議士がいたし、実際、近隣の多くの外国からはそれが警戒されている。」

B「なんだ、エネルギーだけの問題じゃないのか。きな臭い話もあるわけね。」

A「まあね。原子力は、撤退した後でも使用済み核燃料から出る高レベル放射性廃棄物の問題を抱えている。最終的な捨て場が見つからなくて、今でも既に困り果てているのだ。当面の保管先ということで『中間貯蔵』はしているんだが、最終処分場になってくれそうな場所がない。今回の震災がれきで放射性物質を含むものも、最終処分場が決まらずに困っているだろ。高レベル廃棄物となると、桁違いの線量だしね。」

B「最近、科学者グループから『深海投棄』案が出て来たな。地上ではどこにも引き受け手がないから、海に捨てるのが現実的な案だと。」

A「どこをたたけばそんな案が出てくるのか、不思議でならないよ。全くの論外だと思うな。原発廃棄物の海洋投棄は、英仏米などを中心にずっと以前にやられてた。容器は腐食しないとされていたんだけど、10年くらい後でボロボロになって中身が流出していることが判明した。それで、海洋投棄は中止されたんだ。無責任の極みだ。」

B「でも、今度は腐食しない容器を使うからって……。」

A「そんなに安全な容器なら、2000mの深海に沈めなくて、地上に穴を掘って保管する方がいいよ。管理もしやすいし。海に捨てるのだけは、絶対に阻止すべきだね。」

B「じゃあ、ロケットで宇宙空間に放り出す、という案は?地上と永久にオサラバ。」

A「これも論外。ロケットって、技術がこれほど進んだ現在でも、100回に1回落ちるんだぜ。実際、スペースシャトルだって、約200回飛行して乗員が死亡した事故を2度起こしている。100回に1回落ちる飛行機に乗る人はいないでしょ。結局、宇宙飛行は、命がけなのさ。ましてや、これに高レベル廃棄物を載せて飛ばすなんて、とても怖くてできやしない。それに震災がれきだと、量が多すぎてコスト的にも絶対に無理。」

B「ところで、温暖化対策に戻るけど、例の『25%削減』の国際公約はどうするの?」

A「COP17で京都議定書が延長されるなら日本は離脱すると政府方針で明言したんだから、そんなもん無視する一手でしょ。どうせ何の役にも立たないんだから。去年、私は言ったよね。京都議定書延長なら離脱せよと。事態はその方向に進んでいる。」

B「安く済むと言っていた、例の排出権取引はどうなってるの?」

A「あれは、もっと安くなった。CO<sub>2</sub>1トン当たり約20ユーロだった相場が、最近は7ユーロまで下落したんだ。世界的には、IPCCの温暖化CO<sub>2</sub>犯人説の信用度が落ちて来ているし、排出権取引など単なるマネーゲームに過ぎないことが、多くの人た

ちに分かって来て、関心が薄れて来たんだと私は見ている。」

B「そんな話、あまりマスコミには出て来てないもんな・・・。」

A「実はこの頃、私はマスメディア(大新聞や公共放送の特に地上波総合 Ch)の報道姿勢に疑問を感じているんだ。原発や温暖化だけじゃなくて、例えば TPP をめぐる問題でも本当に公平で客観的かつ正確な情報が伝えられているのか、疑っている。」

B「どうしてそんなことが分かるのかね？」

A「それはね、今は複数の情報源があるから。まずはやはりインターネットだね。海外からの情報も直接入る。もちろん膨大な情報は玉石混濁で、ガセネタもデマも山ほどある。公共放送でも、教育チャンネルや衛星放送では海外からの情報とか、一般には知られていない貴重な情報を載せた番組が流されることがある。でも、深夜の時間帯だったりして、それらの視聴率はとても低い。私は、見たい番組は全部録画する習慣なので、何時に放送されても関係ないけど。」

B「具体的な例を挙げてよ。」

A「例えば、原発に関する情報。先だって、福島原発事故の中間報告書が出たけど、事故原因としては、相も変わらず『想定外』の津波が来て全電源喪失に陥ったからだと言われている。でも、すでに岩波新書『原発を終わらせる』等で指摘されている通り、地震直後から急速な原子炉水位の低下が起きているから、最初の地震動で配管が損傷し、冷却材の水が漏れていた可能性が高いわけなんだが、政府や東電はどうしてもそれを認めようとしなない。少数の番組やインターネットでは指摘されてたんだが。」

B「津波より地震そのものが原因だと、津波防護壁作ってもあまり意味ないか・・・。」

A「その通り。安全性確認への影響も甚大だ。『想定外の津波』にすべての責任を押し付けるのは、一種の情報操作。これを追及しないマスメディアというのも、どうかしていると思うんだ。」

B「あと、『冷温停止』というのもあったな。前倒しで実現とか、自慢げだったが。」

A「あれもひどい話だ。いまだに、圧力容器の底の温度が 100°C 以下、という定義を変えていないんだからね。福島では、3つの原子炉で圧力容器(中心にある釜)に穴があいて、高温で溶けた燃料などが落下してしまっている。つまり釜は底抜けなのだ。」

B「底抜け釜の温度が低下しても、あまり嬉しくないよねえ・・・。」

A「米国のスリーマイル島事故の時は、炉心溶融(メルトダウン)は起こったが、溶融体による釜の貫通(メルトスルー)はなかったし、間一髪だったけど水素爆発も免れた。福島事故の方が格段に深刻なのだ。私が一番気になっているのは、メルトスルーした溶融燃料が、格納容器(圧力容器を覆っている外側の容器)底のコンクリート床で、どんな状態になっているかなんだ。地下水汚染が心配だね。そこからの海洋汚染も。」

B「分からないの？」

A「分からないらしい。格納容器内はとんでもない高線量で、近づくことも難しいから、ロボットでも送り込んで見るしかないが、まだできていないようだ。情報は皆無。」

B「なるほど、欲しい情報ほど、手に入りにくくなっているんだな。」

A「TPP 関係もそうだよ。話が長くなるんで端折るしかないが、情報を集めて勉強を重ねるほどに、これを受け入れたら日本はすっかりダメになることを確信するね。」

B「でも賛成している人もいるんじゃない？」

A「それは、少数の確信犯を除けば、正しい情報と理解が不足なために、マスメディアに流されてしまっている人たちだと思うよ。例えば、自由貿易はすべて善だと信じ込まされている人が多いけど、何もかもノンバリヤーで入ってくる危険性を認識していないよね。」

B「自由貿易は、利益があるんじゃないの？」

A「うんにゃ。例えば医師会が危惧している公的医療保険の問題だけど、規制緩和で株式会社制が導入されれば、当然、営利追求が事業の目的になるから、公的医療保険から適用除外される治療や医薬品が増え、患者負担が増える心配がある。実際、米国では虫歯1本の治療に10万円の費用請求など珍しくもない。米国資本はそういうことを可能にする規制緩和を望んでいて、その手先になり儲ける人達が確信犯なのだ。」

B「農業分野が特に問題になっているけれど・・・？」

A「もうすでに要求が出て来てるじゃないの。例えば農作物の残留農薬やポストハーベットの基準は日本流では厳しすぎるから、米国基準にしろと。牛肉も郵政事業も。」

B「交渉次第でどうにかなるんじゃないの？」

A「君も甘いねえ。例外なく一律に、というのがTPPなのだ。一網打尽なんだよ。」

B「何だか、大変なことが進んでいるような気がして来たなあ・・・。」

A「そうだよ。まずは**マスコミ情報を鵜呑みせず自分で良く考える**ことが大事。」

B「今年もまた、君の『ラジカルな』意見をさんざん聞かされてしまったよ・・・。」

A「それじゃ、また元気でね。」